

米 PSU との交流が終了 ワシントンでは、佐々江駐米大使と会見



米ペンシルベニア州立大（PSU）での交流を終えた人文学部を中心とする茨大生 8人が 9 月 21 日に約半月の日程を終えて全員無事、帰国した。PSU との交流は、前年に続き 2 回目。

英語によるプレゼンテーションを全員こなしたほか、週末、ニューヨークを訪れ、米国の文化や経済に触れ、帰国直前には、ワシントン DC に滞在し、日本大使館での佐々江賢一郎駐米大使との会見などにも臨み、充実した日程を過ごした。

帰国後に実施したアンケートで、全員が、「チャレンジ精神が身につき、多少なりとも英語に自信を持てるようになった」と回答するなど、前年同様大きな成果を残した研修だった。現在、報告書を作成中で、完成後は、学部ホームページにアップする。

一行は、9 月 6 日に成田空港発の米ユナイテッド機で、シカゴ経由で PSU の本拠ペンシルベニア州ユニバーシティ・パークに到着、翌日からの交流に臨む強行日程となった。

交流初日の 7 日は、勤労感謝の日に当たる Labor Day（休日）だった。にもかかわらず、PSU 生たちは、早朝から宿泊先のロビーに集結、茨大生と落ち合っ、キャンパスツアーへ出ていく姿などが見かけられた。午後 3 時から、学内の最も古い建物である 19 世紀中盤に建てられた Old Botany で、歓迎会が開催された。



軽食の用意された会では、アジア学科の学科長であるオンチョー先生が、「茨大との交流事業はとても大切。恒久的な事業に持っていきたい」と挨拶、これに対し、引率の古賀純一郎茨大教授は、「今回も異色の人材を揃えた。楽しい思い出を残して帰りたい」と応えた。

その後は、両大学の学生が 20 畳程度の狭い部屋に入り乱れての交換会がスタート。終了後は、リーダーが自宅でのバーベキューパーティーを開き、茨大生も多数参加した。

8 日からは、本格的な研修がスタートした。茨大生は、PSU 生の支援の下、最終日の発表を意識した調査活動のほか、それぞれの関心に応じて講義に出席するなど多忙な日々幕開けとなった。

週末には、高速バスを利用して往復 10 時間のニューヨークに出かけ、移民博物館、メトロポリタン美術館、自然史博物館などを訪れ、見聞を広めるとともに、世界経済の心臓部ともいえるウォール街にも足を踏み入れ、世界最大の金融街を目の当たりにし



た。

2週間目の12日からは、調査活動や論文執筆に加えて、PSU全体で200人が受講する日本語プログラムの講義を訪問して欲しいとの先方からの要請があり、茨大生らはクラスを訪れ、ネイティブの日本語を披露した。

16日は最終日。午後3時から茨大生8人の英語によるプレゼンによる発表会。パワーポイントも当然英語である。



トップバッターは、「日米の忍者観の違い」。米国では、3大ネットワークの



NBC放送の視聴者参加のアクション番組「Ninja Warriors」が大人気となるなど忍者への関心が急速に高まっている。そこに目を付け、日米の違いをレポートした。これに続いて、①無人島に行くとしたら何を持っていく②大道芸③保有する自動車や免許制度④花見⑤色彩感覚—などに焦点をあてて日米の相違とその背景の分析を発表した。

た。

終了後は、歓迎会と同じく Old Botany に移動して「お別れ会」を午後6時前から開催。用意されたサンドイッチをつまみながら両大の学生が2週間の滞在を振り返っていた。

移動日の17日は、フライトまでの空きの時間を利用して茨大生らが日本語チャットインのクラスを訪問、即席の日本語会話を楽しんでいた。



最後の訪問地ワシントンDCのホテルには、午後10時前に到着、疲れもあって全員がそのまま就寝へ。翌日の18日は、午前日本大使館での佐々江駐米大使、午後は、日本経団連の山越ワシントン事務所長との面談が予定されていた。

各自が自己紹介後に、大使との会見がスタート、「大使の1日は」、「一番困ったこと」などの矢継ぎ早の質問が飛んでいた。午後の山越所長との面談では、最近の日米の経済関係がテーマで、茨大生側から「経団連の役割とは」、「所長の大学時代は」などの問いが挙がっていた。最終日は、午前、ホワイトハウスのほか、リンカーン記念館やアーリントン墓地などを訪問、午後は、スミソニアン月の石が触れられる航空宇宙博物館などを訪れ、知見を広めていた。



研修参加者の執筆した論文は、近く作成される報告書に掲載予定で、学部のHPからアクセスできます。乞うご期待。



(終)